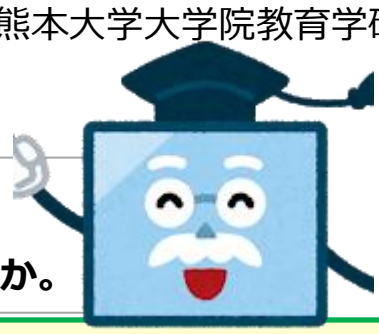
「表現」に重点を置いた授業づくり
～“言葉”による見方・考え方を育み深めるためのアプローチ～

上羽　奈津美（熊本大学教育学部附属特別支援学校）
小学部職員（熊本大学教育学部附属特別支援学校）
仁野平　智明　（熊本大学大学院教育学研究科）
菊池　哲平　（熊本大学大学院教育学研究科）

研究の仮説

知的障がい特別支援学校小学部の国語科において
言葉で“表現”する場面に重点をおいた授業を行うことによって
言葉による認識力が高まり日常生活がより豊かなものになるのではないか。



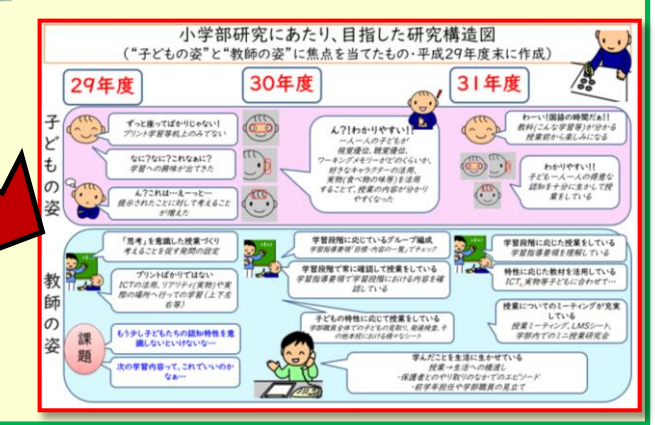
学習指導要領によると
国語科は
“言葉”による見方・考え方！
重要になるのじゃ！

平成２９，３０年度
（研究１，２年目）

知識・技能に偏らない授業展開，思考を促す授業づくりについて研究をしました。また，障がい特性と学習段階に応じた授業づくりについて研究を深めました。

☆授業づくりのポイント☆
- 体験的学習活動
- 操作性と見える化
- 集団のなかの“個”への対応
- 子ども同士の教え合い，共感し合い（対話）
- 自己目標の設定による学習意欲の向上

子どもの姿，教師の姿の
未来を見据えて研究
することが大切じゃ！



課題点；子どもの言語の実態を捉えるデータがなく 実態をどう捉え→学習し→行動が変容したのか？

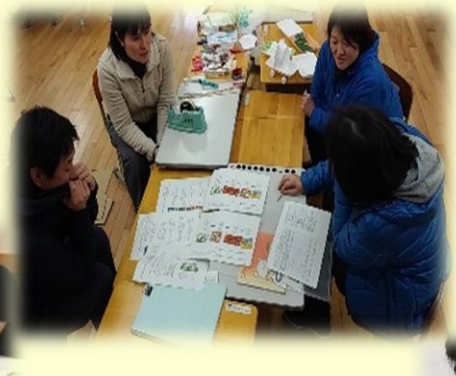
研究の方法

令和元年度（研究３年目）

①ＬＣスケールの活用 【診断的評価】

LCスケールによる発達レベル

- ◇ ことば芽生え期
- ◇ 一語文期
- ◇ 語連鎖移行期
- ◇ 語操作期
- ◇ 発展期



言葉で表現を望むなら
言語のアセスメント
が必要じゃ！

②日々の授業の評価と改善（M,Sシート） 【形成的評価】

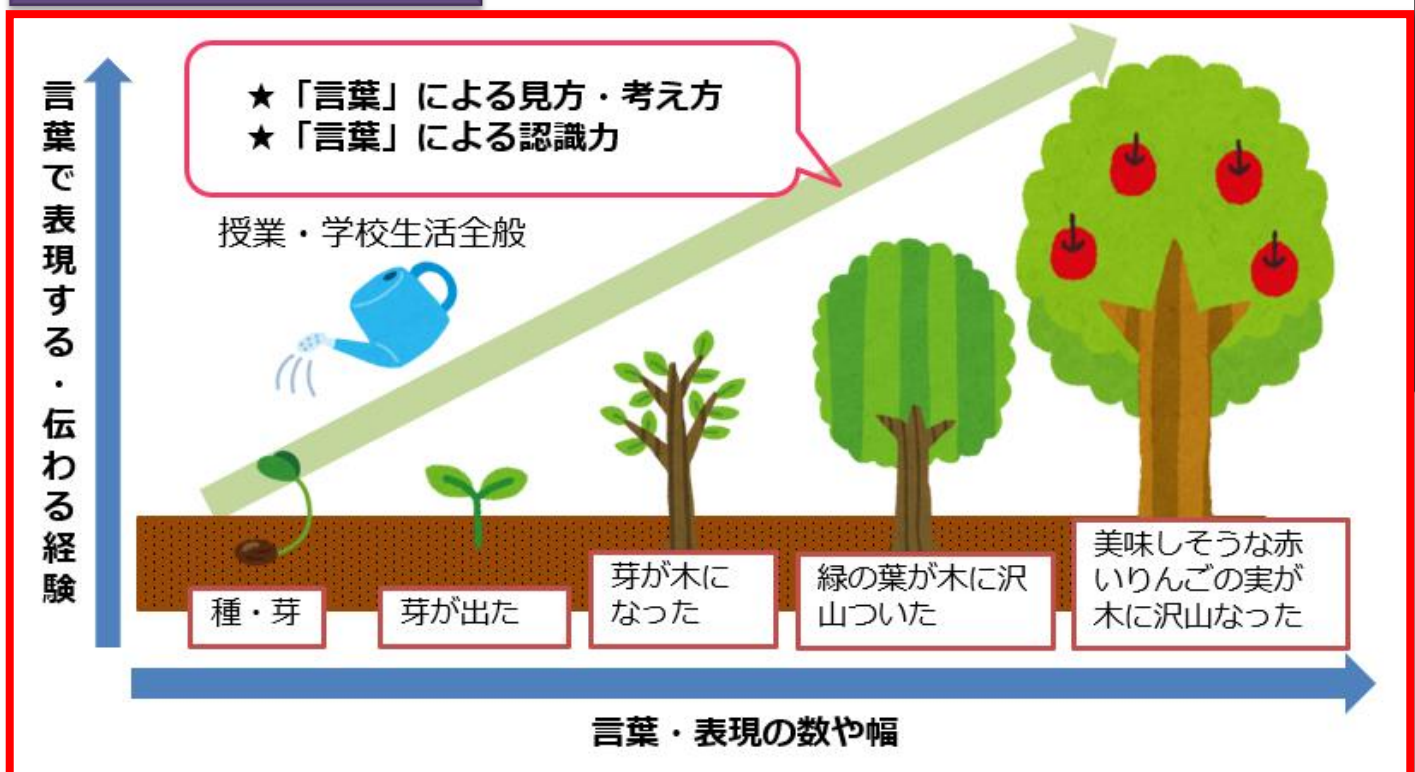
教師の指導の評価　＋　児童の学習評価
◇　表現する場面を効果的に設定できていたか
◇　児童が言葉をいきいきと表現していたか

③他の学習場面等での行動の変容 【総括的評価】

◇言葉の意味，働き，使い方に着目
◇授業時や生活場面における行動（表現）の変容

振り返り
風景

研究の結果と考察



「言葉の数や幅」
×「言葉を使い表現すること」

言葉による見方・考え方が豊かに，
言葉による認識力の向上！